

## 第3回 吹田市福祉避難所運営調整会議（作業部会） 内容要旨

1 日時：平成30年（2018年）3月15日（木）14時00分～15時42分

2 場所：吹田市役所低層棟3階 研修室

3 出席者

施設（指定日順）	事務局
・障害者支援交流センターあいほうぶ吹田	・危機管理室
・亥の子谷デイサービスセンター	・福祉総務課
・特別養護老人ホーム いのこの里	
・介護老人保健施設 つくも	
・地域密着型特別養護老人ホーム 縁	

4 内容要旨

(1) 福祉避難所設置・運営マニュアルの改正について

改正案をお示ししたうえでご意見をお伺いし、下記のとおり変更となりました。

箇所	変更内容	理由
4ページの2	見出しに「【施設】」を追記	4～5行目の主語が「施設」であるため。
4ページの2	非常用トイレの備蓄及びローリングストック（※）について追記	災害時、食事よりも排泄が重要であることや、近年浸透しつつある備蓄方法について周知するため。
5ページ	施設の平常時における取組として、施設独自のマニュアル作成及び施設間・地域間連携に努める旨を追記	過去の会議にて、課題として挙がっていたため。
7ページ 「共通事項」のア	ライフラインに「トイレ」を追記	トイレも重要なライフラインの1つであるため。
9ページの（3）	介護保険の柔軟な制度運用について追記（詳細は、資料として追加します。）	施設側から記載のご要望があったため。
9ページの（4）	ボランティアの活動について追記	基本的な情報の周知のため。

※ローリングストックとは、日頃から食料や日用品を多めに買い、期限の迫った物から消費し、消費した分を購入して補充する備蓄方法。

(2) 災害ボランティアについて

下記に示す、災害ボランティアの基本的な情報について説明をしました。

- ・活動時間は10時から16時まで（夜間の人手については検討します。）
- ・活動はボランティア保険の適用範囲内であること
- ・「できるときに、できることを、できる人がする」ものであること（毎日同じ時間帯に同じ人が来て同じことをするのではないということ）

### (3) 危機管理室からの助言

#### ア 備蓄について

災害発生の翌日にはプッシュ型支援（被災地から具体的な要請を待たず、国が必要と見込まれる物資を緊急輸送する支援）があると想定されるため、まずはそれが届くまでの1日分の備蓄が最低限必要ですが、その後、福祉避難所開設までの期間もあるため、少なくとも3日分の備蓄を推奨します。

施設により異なるため具体的な備蓄量を示すのは難しいが、ライフラインが止まり買い物にも行けないと想定した場合に何が必要になるかを考えれば、見えてくるのではないかと思います。

また、費用を負担して準備をするなら食料よりも非常用トイレの備蓄を推奨します。

#### イ 施設独自のマニュアル作成について

##### (ア) 簡潔にまとめる

災害発生後の混乱時に見ることを想定し、例えばA3用紙の両面にまとめるなど、より簡潔なものが実用的（施設長クラスの方々には、平常時から市のマニュアルに目を通しておいていただく必要があります。）

##### (イ) 「人と情報の流れ」を明記する

過去の災害で人と情報の流れや連携がうまくいかなかったという事例を踏まえ、例えば何が必要で、それをどこに要請し、届いた物を誰に届けるかなど、情報の伝達経路を記載することが必要。

なお、もしFAXが使えず、福祉総務課と連絡が取れない場合、各小学校に、地域の情報を災害対策本部に伝える役割を担う「緊急防災要員」という市職員が配置されているため、最寄りの小学校に向かうこともひとつの方法です。

#### ウ ボランティアについて

要請内容が不明確なまま派遣依頼をするよりも、任せる仕事や人数などを明確にしている方がボランティアの派遣を早く受けられるため、平常時から具体的に考えておくことが必要（例えば1日の人手が普段の半分になると想定し、そこから何人必要かを算出するなど）。

## 5 その他

本会議にて、防災ハンドブック、防災ポケットブック及び福祉避難所備蓄品としてラテックス手袋を配付しました。（欠席施設にも順次配付いたします。）